

【分科会 16】ピアサポートの部屋 ～ピアサポ、知ろう・語ろう・始めよう！～

藤野英明(横須賀市議会議員)

有村律子(NPO法人全国精神障害者団体連合会)

加藤道広(栃木県・おたすけclubぴあかん)

澤田優美子(東京都・青梅精神障害者ピアサポートグループぶ〜け)

渡口泰子(兵庫県・ドリームファクトリー)

岩下洋三(東京都・「元気+サークルズ」@清瀬)

司会進行:山内正人(NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ)

近年の「病院から地域へ」という流れの中、多くの精神障害者の方が地域で暮らしています。ただそれにつれて、「居場所がない」、「自分の話を聞いてほしい」という声も、高まっているように感じられます。このように、ともすれば孤立しがちな地域の精神障害者が自らグループを立ち上げて、交流しながら助け合うようなピアサポートの活動が全国各地で活発化してきています。

分科会 16「ピアサポートの部屋」では、前半は当事者の方々に、各地のピアサポートの活動を発表していただき、後半は、ほぼ初対面である参加者の皆さんに実際にピアのグループを体験していただくという 2 部構成で実施しました。

まずこの分科会の枠組みを作ってくれた宇田川健さん(NPO法人地域精神保健福祉機構コンボ)が、現在自宅療養中でリカバリーフォーラムに参加できないため、参加者の皆さんへのメッセージをお預かりして司会者(山内)が代読しました。

続いて、リカバリー全国フォーラム 2012 の企画委員である藤野英明さん(横須賀市議会議員)と有村律子さん(NPO法人全国精神障害者団体連合会)に、自己紹介を兼ねてピアサポートの可能性についてお話ししていただきました。

さて実際の活動紹介に入りまして、トップバッターは、加藤道広さん(栃木県・おたすけclubぴあかん)。当初は加藤さんの地元宇都宮での活動内容を発表していただく予定でしたが、急きょ「皆さんをほぐしますよ」と言っていただき、持ち時間のほぼすべてを使って 100 人あまりの参加者全員が手をつなぎ、隣の人の手を握ってリレーして 1 周するというアイスブレイクをリードしていただきました。

皆さんがほぐれたところで、次は澤田優美子さん(東京都・青梅精神障害者ピアサポートグループぶ〜け)。子どもの頃のつらい経験を経て、いくつかの「きっかけ」をステップに、現在のピアサポートのグループにめぐり合い、活動を続けるようすをレポートしていただきました。

続いて渡口泰子さん（兵庫県・ドリームファクトリー）。ある団体が実施したセルフヘルプグループの研修に参加したことがきっかけで、ピアサポートの価値を認識し、地元で活動を始めるまでの経緯と現在の活動をレポートしていただきました。

発表の最後は、岩下洋三さん（東京都・「元気+サークルズ」@清瀬）。NPOコンボでは昨年度から、この日参加できなかった宇田川健さんが考案したシンプルなルールを用いてピアサポートの活動を全国に広めていくために PNPP（ピア・ネットワーク・プロモーション・プロジェクト）というプロジェクトを行っていますが、このプロジェクトの事実上第1号として活動を続けている「元気+サークルズ@清瀬」のようすを、つらかったご自身の介護経験などを織り交ぜてレポートしていただきました。

最後に司会者が、NPOコンボの会議室で月1回第一木曜日の午後に実施している「元気+サークルズ@コンボ」（別名：賛助会員交流会）のようすを簡単にレポートして前半が終了し、15分間の休憩に入りました。

余談ですが、この休憩中にも、企画委員や参加者の前には質問の行列ができ、ひんぱんに名刺交換が行われるなど、参加者の皆さんの関心の高さがうかがえました。

後半は、実際に参加者の皆さんにピアのグループを体験していただきました。

1グループ8人程度で10数グループに分かれていただき（なるべく知り合いの方は別のグループに分かれていただくようにして）、「自己紹介」と「本日の発表の感想」という2つのテーマについて話し合っていました。

終了時間の関係で、30分しか時間が取れなかったことがかえすがえすも残念でしたが、皆さん最後の方は初対面とは思えぬほど打ち解けて、終了後、それぞれのグループでファシリテーターに指名された方全員に、グループ内で話し合った内容を発表していただき、参加者全員でそれを共有して終了しました。

司会者の身勝手な感想をお許しいただけるのならば、ソーシャルメディアが時空を超えて人を結びつけることは確かにすばらしいことですが、やはり人と人との実際の交流に勝るものはないという思いを新たに2時間半だったと思います。

《山内正人（NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ）》